

お母さんを支えつづけてたい

—原発避難と新潟の地域社会—

高橋若菜・田口卓臣編

(宇都宮大学国際学部准教授)



原発事故から3年以上たった今日も、14万人をこえる人々が、全国で避難生活を続けています。そのなかには、大勢の母子たちもいます。避難をしてもしなくても、母子たちはそれぞれ自責感にさいなまれ、世間の強い風当たりの中で口をつぐみ、足がすくむ思いを経験してきました。その姿は、全国各地で、同じように子育てをしてきたお母さんたちに大きな衝撃を与えました。子どもを守りたいという思いで、人と人、心と心がつながっています。本ブックレットでは、新潟県新潟市を舞台に、原発避難した母子たちと、支えつづける地域社会の姿を、紹介します。

- インタビュー「お母さんを支えつづけてたい
—福島からきた母子避難者たちの二年半をふりかえって」
NPO 法人ヒューマン・エイド 22 代表 新潟市新津育ちの森館長
椎谷照美
- 避難したお母さんたちからの手紙
「娘たちへ…」 「三. ー前の私へ」
「次男へ」 「今伝えたいこと」
- 解説 1 思いに寄り添い、力を取り戻す—子育て支援で大切なこと
(新潟県立大学准教授 小池由佳)
- 解説 2 数字でみる福島県外の原発避難者たち—自治体等によるアンケートをもとに

定価：本体 600 円＋税 A5 版 72 頁 ISBN978-4-7807-1195-0